

蛙になれ

むかし〜一人のけちんぼうが居りました、お女房さんにも知らせない様にして毎日錢を一錢二錢づゝ竹筒に入れては確りと口をして、押入れの奥に隠して置きました。夫でも、ひよつとかして、人に見付けられでもしては大變と思ひましたから、いつも錢を
 人が見たら蛙になれ、巳が見たら錢になれ
 といつて口をして居りました。
 すると、何時か女房さんが、其言つてゐる所を、そつと見付けました。そして丁度、お金の入用の時でしたから、けちんぼうの亭主が出て行つた後で、そつと、其竹筒の中からお錢を悉皆取り出して仕舞ひましたが、平素から氣輕な性質でしたから、一番戲つてやらうと思つて、錢を取り出した後へ

蛙の子を一匹入れて、元の様にちやんと口をして置きました。

暫くすると、この亭主は外から歸つて来て、竹筒の中の錢がちやんとして居るかどかと思つて、一人で以てそつと口を取つて見た所が、思ひもよらず、蛙が一匹飛び出して來ましたので、
 狼狽てまいことか

「こりやく〜人違ひしてはいかぬ、おれじやないかおれじやないか」
 と申しましたとさ。

第五卷第六號懸賞考へ物

解答者及び受賞者披露

題

(1) 十六を三分して我國名 石見(五、八、三)